

屋久島産広葉樹の利用

屋久島では、ヤクスギだけではなく、良質の広葉樹がたくさん産出されます。

広葉樹の特徴として、乾燥が遅く硬くて加工しにくい面もありますが、材色が豊富で杢目も多様なため、木工芸品に適しています。そのため国内外問わず、広葉樹で多くの家具や工芸品が作られているのです。

本来、木工芸品は、長持ちして、修理が効き、あつらえでき、しかも土地柄のよくてた風土性と造形性をもつべきです。そのためには、製作に当たって、過去の歴史を知り、加工技術を磨き、創造性を豊かにして個性を伸ばすことが必要と思われれます。

そこで、今回は伝統技術に、現代感覚を加えシェーカー家具3点（スタンド、ベンチ、キャンドルボックス）の復元と創作家具3点（飾り棚、小引出し、スツール）、小物入れ等を提案します。

なお、シェーカーとは、「心は神に、手は仕事に」をモットーとしたキリスト教一派のことで、シェーカー家具は、20世紀デザインを100年以上も先取りしたものとして注目を浴びています。

今回の使用材料はヤクスギ・タブ・クスノキ・イスノキ・モッコク・ミヤコダラで、素材の生かし方では〈材色と杢目〉に視点を当て、デザイン上のテーマは〈シンプル・モダン〉として、可能性を試みました。